



「北 欧」からの Message

第75回 定期演奏会 2016.4.24

♪シベリウス：アンダンテフェスティーボ
カレリア序曲／カレリア組曲

♪ニールセン：交響曲第4番「不滅」

14:00 開演
厚木市文化会館大ホール

2016年春、また「友の会」の新たなシーズンが始まります。会員の皆様には変わらぬ温かいご支援を賜りまして、心よりお礼申し上げます。

さて、今年度最初の定期演奏会では、「北欧」生まれの二人の作曲家の作品をお届けいたします。

指揮をお願いしたのは、2012年より当団のトレーナーとしてご指導いただいている稲垣雅之先生です。

先生が私達の前に初めて登場されたのは、2012年の9月、場所は御殿場の合宿会場でした。丁寧で熱いご指導は団員の気持ちをしっかりとつかみ、今回、念願かなっての初共演となりました。

「不滅」という難曲を相手に奮闘される先生にお話を伺うことが出来ました。

稲垣先生にインタビュー!!!



—昨年春の「アメリカ特集」に続き、今年は北欧の作曲家二人を取り上げることになりました。今回のプログラムについて先生はどのように思われますか？

最初にお話を伺った時には、まず、ニールセンの「不滅」をやりたいと。正直、難しい曲で不安に思いました。アマチュアオーケストラではなかなか取り上げられることは無く、僕自身も初めてで、よりによって僕が初めて定期演奏会でご一緒するときに「不滅」かと（笑）。もちろんやりがいもあるんですよ。前半に同じ北欧のシベリウスを持ってくるのはすごくいいと思います。ご存知のように、二人は同じ1865年の生まれで、その二人を並べてやるのは時系列的にもとても面白い、いいプログラムになったのではないかと思います。

—同じ年に生まれたにしては随分と作風が違いますね？

シベリウスの「カレリア」は彼の若い頃の作品です。新婚旅行に行った先の地方を題材に、私生活が幸せ一杯で充実していた頃に書かれたものですね。それに対して「不滅」はニールセンの円熟期に書かれ、背景には第1次世界大戦がありました。デンマークは戦争には巻き込まれていないけれど、そういった時代背景に加え、彼自身の結婚生活にも問題がある時期だったようです。プログラムの前半と後半で、そういう対比も楽しめますね。

—「不滅」ではティンパニが2台使われますよね？

「闘争」を表すためでしょうか？完全にアンサンブルとして調和を目指しているというよりは、本当に危うい、下手をすればずれる、崩壊寸前のところで書いているので、すごく難しい！指揮者として大いに不安で、上手い人が来なかったら終わっちゃいます（笑）。（注：奏者は二人ともエキストラの方をお願いしています。）

—調性の無い曲とされていますが、演奏する際に難しい事などありますか？

シェーンベルクのように本当に無調というのとは違い、まだそこまでは行っておらず、基本になる調性（ベートーヴェン「運命」の場合はハ短調）が無いだけでいろんな調を揺れ動いている。普通は、「主調～属調～再現部に戻る」のですが、揺れ動きにそのような規則性が無いだけで、調が全然無いわけではありません。

—初めて「不滅」を聴く人に、ここに注目してほしいという部分など？

初めてだからこそ**先入観なし**に聴けるというの也有ります。厚響の演奏で初めてこの曲に触れる。そこからどんな**メッセージ**を受け取るか、初めて接することで得られる興奮や感動もあります。先入観を持たずに自分のイメージでお楽しみください。



—タイトル通り「不滅」というメッセージをこの曲は表現していると思われませんか？

思います、思います！！（力説）第一部からずっとそうなのですが、魂や芸術の賛歌、途中ティンパニの激しい闘争があっても、結局は賛歌が支配して終わる。戦争があっても何があっても、人間というものは終わっていかないし、もちろん芸術も終わらない。いくら破壊があっても、そういうものは**永遠**に続いていく・・・ということを示していると思います。

—先生の練習というのは、同じ箇所を何度も繰り返して、とても丁寧に見てくださるという印象が強く、私達にとってはありがたいのですが、ご自分では練習に対する何かこだわりのようなものはありますか？

ありますね！ どうして細かい練習になるかということ、やっぱり音楽を表現する上で、まず**技術的なもの**をクリアする、音符がちゃんと弾ける状態、それが一番の作曲家に対する**敬意**だと思うのです。絵を描く場合もそうですね、いくら抽象的な絵を描く場合でも、基本のデッサン力は必要。ピカソだってキュビズムに至る以前にちゃんと描いてます。音楽をやっている以上は、**厳密なアンサンブル**がまず構築されること、それは絶対飛び越えられないことで、プロや超一流でも同じです。アマチュアならなおさら、飛ばさずにしっかりやった上で聴いていただきたいし、それがまた演奏者の完成度の高い**満足**に繋がるんじゃないでしょうか。弾けずにごまかしごまかしで消化不良に終わってしまうよりは、いい演奏をステージでやりたいですね。

—この曲を振るにあたって誰かの演奏を聴いたり、参考にされることはありましたか？

あまり無いですね。一から**譜面**と向き合って、一生懸命**作曲家の意図**を探ろうとする、作曲家がそこで何を考えているかに想いを馳せる、（その結果はもしかしたら間違っているかもしれないけれど・・・）勉強するときはスコアと向き合って、頭の中で音楽を流しながらやっています。難しい部分では他人の演奏を聴いてみることもあるけれど、音楽の**表現**の作り方で他人から影響を受けたりはしません。



—さてここからは、先生ご自身のことについて伺いたいと思います。指揮者になりたいと思われた時期、きっかけなどについて教えてください。

話が長くなりますね～（笑）

愛知の田舎で、**親戚一同**がみな近所に住んでいるような土地の生まれです。祖父母が芸事が好きで、特に**祖母**ですが、そのためかどうか、**従兄弟たち**は皆なにかしら楽器をやらされていた。僕たち兄弟も当然のごとくで、僕の場合は**9歳からトランペット**（以下Tp.と省略）の個人レッスンを受けていました。その従兄弟たちとは、昔からそうでしたが、今でも親戚の集まりがあるとその場でアンサンブルを披露したりして楽しんでいます。

—稲垣家の一員であるためには、楽器は不可欠だったのですね（笑）

Tp.は最初の頃はほんとに嫌だったのだけど、中学以降は学校のブラスバンドと個人レッスンを並行していて、その頃すでに、**音大**に入ることを考えていました。高校は**県立の普通科**だったにもかかわらず、熱心な名物先生がいたおかげで、**音大付属校**のような内容で**週3回**音楽の授業が受けられました。もちろんそれは正規の高校の指導要領からははずれていたでしょうね（笑）。音楽嫌な人は数学をとるわけです。授業では弦楽合奏もあり、**チェロ**を弾いていましたが、これはひどかった～（笑）。こんな学校でしたが、吹奏楽コンクール等に出ることは無く、校内の定期演奏会を重視していました。世間一般の吹奏楽ではなく**音楽を重視**していた先生の希望は、弦楽器を育ててオーケストラを創る事だったのですが、それにはみんなが下手すぎて叶いませんでした（笑）。

—愛知県立新城東高校、恐るべし!!ですね。

当然Tp.で音大に入ったのですが、大学3年のときに、僕が頭で思っている音楽というのがTp.では表現できないと思うようになったのです。子供の頃は楽器を吹いていて楽しかったのに、成長してもっとやりたいことが出てきたときに自分のTp.ではそれが**表現できなくなった**。僕の周りの人は僕のTp.を聴いてそれが僕の音楽だと思っている、だけど僕ももっと違うことを考えている。音楽が頭の中で鳴っているのにそれが楽器では表せない！すごいしんどかった！**フラストレーション**が溜まりました。だからと言って、すぐに**指揮**の方を考えたくもないのです。大学卒業までずっと悩んで**模索**していました。9歳の時からずっとTp.をやってきて、親にも**経済的に負担**をかけてきたのに今さら辞めるなんて。ブラスバンドの指揮は高校のときからやっていましたが、卒業後Tp.の仕事のかたわら、吹奏楽の指導や指揮をする仕事が増えて来ました。「**もしかしたら、これじゃない？**」おぼろげながら**指揮者**というのが見えてきました。そこで、いろんな人に相談しましたが、その全員から「**やめろ！**」と言われました（笑）。そんな中たった一人、「**やったら？**」と背中を押してくれた人がいて、秋山和慶先生のいらっしゃった洗足学園付属指揮研究所を受けることにしたのです。幸い両親もわかってくれて、無事合格することが出来ました。

一さて、これから後、先生がどう歩んで来られたのかは、以下のプロフィールをご覧ください。

conductor **稲垣 雅之** Masayuki INAGAKI

愛知県出身。名古屋芸術大学卒業。洗足学園音楽大学附属指揮研究所修了。

2002年、女満別国際音楽セミナーを受講。

2003年、湯浅勇治氏の指揮セミナーを受講。

2006年、東京佼成ウインドオーケストラのオーディションに合格し、2年間指揮研究員として、ダグラス・ボストック、下野竜也、斎藤一郎、山下一史、渡邊一正、ポール・メイエ各氏等のアシスタントを務める他、第19回朝日作曲賞最終審査会、第1回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール本選、特別演奏会、音楽教室、録音等、約50回指揮を担当する。またチェリスト奏者としても定期演奏会他に出演。

2008年、ダグラス・ボストック氏の推薦によりユングフラウ音楽祭(スイス)に参加し、国際指揮マスタークラスを受講。

同年、仙台フィルハーモニー管弦楽団の公演にて山下一史氏の副指揮者を務める。

2009年、ベルナルト・ハイティンク国際指揮マスタークラス(スイス)に於いて、世界各国の応募者の中からオーディションにより数名の受講生に選ばれる。

2010年、ネーメ・ヤルヴィ国際アカデミー(エストニア)に受講生として参加。アカデミー開催期間中に行われたコンサートにネーメ・ヤルヴィ氏に選出され出演。

2013年、ベルナルト・ハイティンク指揮ロンドン交響楽団の来日公演に於いてリハーサルに同行し師の元で研鑽を積む。

これまでに指揮を秋山和慶、ベルナルト・ハイティンク、ネーメ・ヤルヴィ、ダグラス・ボストック、レオニード・グリム、小林研一郎、湯浅勇治、河地良智、川本統悟の各氏に、スコアリーディングを島田玲子、西川麻里子の各氏に、ピアノを坂坂真理子、中野五月、越野宏之の各氏に、ソルフェージュを宮川陸男氏に、古楽器演奏法を竹本義明氏に師事。

ルツェルン・フェスティバル・ストリングス、バルヌ・シティ・オーケストラ、エストニア・ナショナル・ユース・オーケストラ、東京佼成ウインドオーケストラ等のオーケストラ、吹奏楽団を指揮。ソリストとの共演も多く、ピアニストの春原恵子、山岸ルツ子、ミハイル・カンディンスキー、渡辺治子、チェリストのマリウス・ヤルヴィ、サクソフーン奏者の須川展也各氏等と共演し何れも好評を博している。



一最後に、2010年にネーメ・ヤルヴィ国際アカデミーに受講生として参加されたときのエピソードを話して下さいました。(ネーメ・ヤルヴィは現在NHK交響楽団首席指揮者を務めるパーヴォ・ヤルヴィの父です。)

ネーメ・ヤルヴィは授業、指導に関しては全然ぱっとしなかったのです。受講生の中には文句を言っている人もいました。最終日、受講生たちによる演奏会があったのですが、最後にアンコールの形で師匠がステージに急遽登場し、いきなり「アンダンテフェスティエヴォ」(今回のプログラム1曲目)を振りだしたのです。その途端に、オーケストラの音が全然変わりました! そのときの印象が強烈で、今でも忘れられません。

いつも真っ赤なパーカーや上着を愛用され、指揮棒を入れたケースにはマリメッコ(フィンランドのテキスタイルメーカー)の鮮やかな赤のプリントが。その赤は、音楽に対する先生の熱い情熱を表しているのですね、きっと!

さて、先生と一緒に創り出す北欧の音楽、どのようなメッセージが皆様のもとに届くでしょうか?どうぞ、ご期待ください! 稲垣先生、どうもありがとうございました。本番、どうぞよろしく願いいたします!

●第76回 定期演奏会

2016年9月25日(日) 14:00 開演(予定)
厚木市文化会館 大ホール

リヒャルト・シュトラウス: 交響詩「ドン・ファン」 作品20
ドビュッシー: 小組曲
ブラームス: 交響曲第3番
指揮/大浦 智弘

●平成28年度 あつぎ市民芸術文化祭

2016年12月11日(日) 厚木市文化会館 大ホール
ヘンデル: 「メサイア」(抜粋)
指揮/松村 秀明 合唱/厚木合唱連盟

今後の演奏会
予定

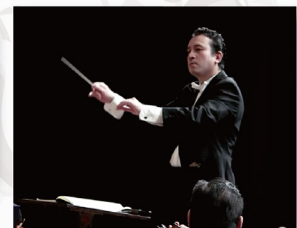


第74回 定期演奏会に



ご来場ありがとうございました!

昨年12月13日、伊勢原市民文化会館に於いて第74回定期演奏会を無事終了することができました。朝から雨というあいにくのお天気に加え、いつもと会場が違うこともありやや寂しい客席となりましたが、ご来場いただいた皆様には、木野雅之先生の素晴らしいヴィエニヤフスキVn.コンチェルト、それにマエストロ真郁（厚響演奏会では初の燕尾服姿!）の渾身の「チャイコフスキー交響曲第4番」をじっくりお楽しみいただけたものと存じます。木野先生は特別にアンコールでタレガ作曲の「アルハンブラ宮殿の思い出」を演奏して下さいましたが、本来はクラシックギターのためのこの名曲を見事なテクニックで弾きこなされ、ステージ上で団員も聴きほれるばかりでした。終演後の打ち上げでは、本当に気さくに、和やかに団員からのサインや撮影のリクエストに応じて下さり、その温かい人柄にもすっかり魅せられてしまいました。後日、さっそく先生が出演される日フィルの演奏会に出かけた団員もいたようですよ（笑）。



事務局より

- 例年よりも暖かった?冬のあとに、春が駆け足でやってきましたね。早くも桜の季節となりました。「友の会」の皆様には、早々にご継続のお手続きをいただき、感謝の念に堪えません。1月の団員総会で役員改選がりましたが、これからの2年間引き続き西尾尚（代表）今村悦子、岡田史子（事務局）の3人が担当させていただくことになりました。これからも皆様の温かいご支援にお応えすべく、より一層充実した「友の会」となりますよう努力して参ります。どうぞよろしく申し上げます。
- 厚木交響楽団は来年2017年には創立40周年を迎えます。充実した記念イヤーとなるよう、今からいろいろな計画が動き出しています。いつも会場に足を運んで下さる市民の皆様感謝の気持ちも込めて、普段の定期演奏会では出来ないような特別企画が登場するかも!?どうぞご期待くださいませ!
- ネーメ・ヤルヴィの「アンダンテフェスティヴォ」に大きなショックと感動を受けられた稲垣先生。今度の演奏会は、その曲から始まります。4月24日は、どうぞ皆様お誘いあわせてご来場下さいませ。いつもの厚木市文化会館にて、団員一同、心よりお待ち申し上げます。

（事務局 岡田 史子）